

銚田一高 進路選択サポート

高校生、大学講義受ける 銚田一高 進路選択サポート



大学講師の講義を受ける生徒たち＝銚田市銚田

銚田市銚田の県立銚田一高（飯山美都子校長）で14日、2年生を対象とした大学出張講義が開かれた。茨城大、筑波大、県立医療大の教員ら10人が講師を務め、生徒たちは高校の授業とは異なる研究者の講義を体験した。

出張講義は生徒たちが大学での学びに対する理解を深め、適切な進路を選択することを補助することが狙い。また生徒が興味のある分野以外の話を聞くことで、最初から進路を狭めるのではなく、視野を広げることも目的の一つだという。

今回は人文社会科学や教育学、理学、工学、情報科学、看護などの分野を担当する教員が登壇した。

このうち、茨城大地域未来共創学環の講師を務める伊藤雅一さんは「魅力ある都市や地域とは―地域課題を思考する第一歩―」と題する講義を行い、社会的に地域を考える方法を伝えた。

伊藤さんは「地域」の辞書的な意味は「範囲」だが、日常的には文脈に依存して「地元」や「人間関係」、「田舎」など多様な意味を持つことを紹介。続けて、「多様な意味を持つ言葉は、意味を特定して使用する必要がある。社会学的な分析では概念を分けることが重要になり、それが研究のきっかけになる」と語った。

また、「社会学は事実を探究する学問のため、残念ながら地域活性化や開発に直接的な影響はない。ただし、行政の参考になるといった間接的に役に立つケースはある」とも説明した。

雨宮唯乃さん（17）は「大学の授業は高校の勉強のための授業とは違い、社会とつながっていると感じた。将来は海外の大学でマーケティングを学びたいと考えているが、今日の授業で視野が広がったように思う」と述べた。（鶴岡宜規）

茨城新聞 2026年9月28日（月）掲載